

無念無想

愛知高等学校

愛知高等学校剣道部の部旗の「無念無想」という言葉について考えてみましょう。

漢和辞典で「念」と「想」を引いてみますとどちらも「おもう」と読みますので、一見すると同じ意味の言葉が繰り返されているように見えます。しかし、もう少し深く「念」と「想」の違いに注目しながら探ってみたいと思います。

「念」は「入念」とか「念力」という熟語があることから「思い続ける」とか「心に深くかみしめる」という意味があり、また、「想」は「想像」とか「妄想」などの熟語があるので「目の前にないことをおしはかる」という意味もあるように思います。

したがって「無念」は「心の中にあるこだわりや思いから解き放たれること」また、「無想」は「今、目の前にはないものごとに心乱される状態から解き放たれること」というような意味があるのではないかと考えます。「無念無想」という言葉は禅の古典にはよく登場する言葉で、修行者が悟りを得たときの心の様子を示す深遠な言葉だと思えます。

剣道を学ぶ高校生の立場から「無念無想」を解釈しますと「心に浮かぶ雑念を振り払って剣道に集中し、試合に負けるのではないかというような、まだ起こっていないことに対する不安をうち捨てた状態」のことをいうのではないかと思います。その実現のためには日々目標を立て、思う存分汗を流して稽古を重ねる以外にはないと思います。

この部旗は昭和61年、奥平滋先生が愛知高校の剣道部を指導されているときに作られたものであると聞いています。当時私は八日市高校の顧問をしていて、よく練習試合をし、何度も手痛い負けを喫した愛知高校に、強いチームだという印象を持っていました。

現在の部員諸君も、この部旗に励まされて稽古に励んでいることと思います。